

NYダウが初めて30,000米ドルを突破

起業家精神が米国株式市場の強み

2020年12月1日

お伝えしたいポイント

- NYダウが史上初の30,000米ドル台乗せ
- 時代の変化とともにNYダウの構成銘柄も変化
- 長期的に米国株式市場の堅調さは維持されよう

NYダウが史上初の30,000米ドル台乗せ

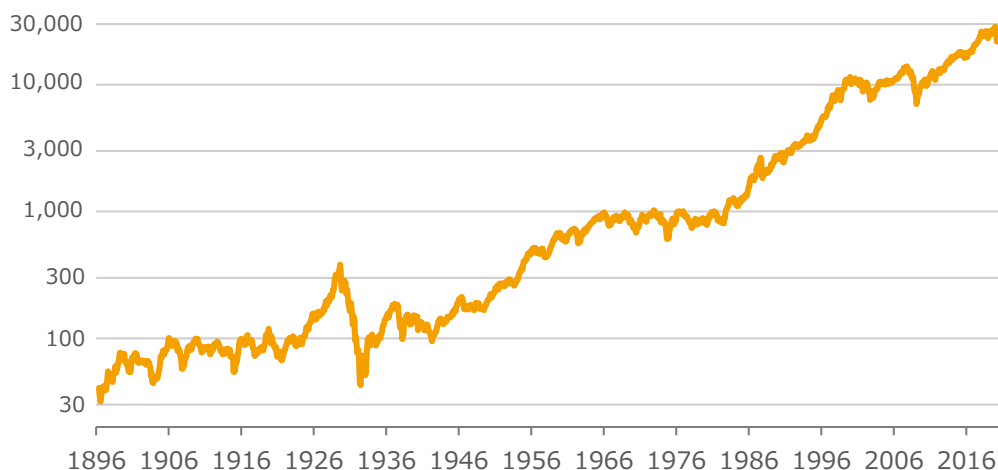
ダウ・ジョーンズ工業株指数（以下、NYダウ）は、11月24日（現地）、終値で初めて30,000米ドル台に乗せました。NYダウは1896年5月に約40米ドルで算出が始まって以来、幾多のブームや苦難を乗り越えながら上昇を続けています。NYダウが現在の約100分の1である300米ドルに達したのは1928年でした。しかし、1929年に世界恐慌に見舞われ、1932年には40米ドル近辺まで下落を余儀なくされました。再び300米ドル台に乗せたのは第二次世界大戦後の1954年で、回復に約25年の歳月を要しました。

その後、NYダウが約10倍上昇し3,000米ドル台に乗せたのは、1954年からは37年目の1991年です。最近、日経平均株価が29年ぶりの高値と報じられますが、ちょうどその対比されている頃です。当時は旧ソ連の崩壊など世界情勢が激動している時期でした。1980年代後半の日本経済の躍進を受け、米国の時代は終わり、これからは日本の時代になるといわれたこともありました。しかし米国経済がその歩みを止めることはなく、NYダウは3,000米ドル台乗せから29年で30,000米ドル台に乗せました。

NYダウの長期推移

(米ドル、対数目盛)

(1896年5月～2020年11月:月次)



(出所) ブルームバーグ

時代の変化とともにNYダウの構成銘柄も変化

NYダウは当初、12銘柄で構成されていましたが、1928年以降は現在に至るまで30銘柄で構成されています。企業として極めて高い名声があること、持続的に成長していること、多くの投資家が関心を示していることなどが構成銘柄になる条件です。構成銘柄は不定期に見直されますが、時代を代表する企業が選ばれていく結果、構成銘柄が30銘柄になってから、ずっと構成銘柄にとどまり続けている企業はありません（次頁参照）。

● 1928年～1950年

世界恐慌と第二次世界大戦を含むこの間、NYダウの構成銘柄は結果的に12銘柄入れ替わっています。結果的にというのは、複数回入れ替わった銘柄もあるためです。例えば、ライト兄弟が発祥のライト・エアロノティカルは、ハドソン・モーター、コカ・コーラ、ナショナル・スチールと入れ替わりました。この頃、一時IBMも構成銘柄だったことがあります。経済環境の変化などで、企業の統合が進んだり、産業構造が変化したことが、構成銘柄にも影響を与えたと思われます。化学産業や自動車産業、通信産業の重みが、構成銘柄においても増したと言えそうです。

● 1951年～2000年

この50年間は、米国経済が黄金時代から衰退の時代を迎え、そして再生を果たした期間といえます。米国の産業構造の変化に合わせる形で、1980年代後半辺りから構成銘柄も積極的に見直されることが増えました。特に1999年、石油のシェブロン、百貨店のシアーズ・ローバック、タイヤのグッドイヤー、化学のユニオンカーバイドの4社が、通信のSBCコミュニケーションズ、ホームセンターのホーム・デポ、半導体のインテル、ソフトウェアのマイクロソフトの4社と入れ替えられたことは、時代の変化を象徴する出来事でした。また、それまでニューヨーク証券取引所上場銘柄に限られていた構成銘柄に、インテル、マイクロソフトというナスダック上場銘柄が採用されたのも、この時が初めてです。

● 2001年～2020年

この20年間も、産業構造の変化を反映した構成銘柄の入れ替えが行われています。自動車のゼネラル・モーターズと通信機器のシスコ・システムズ、アルミのアルコアとスポーツ用品のナイキ、総合電機のゼネラル・エレクトリックと薬局チェーンのウォルグリーン・ブーツ・アライアンス、石油のエクソン・モービルとクラウドサービスのセールスフォース・ドットコムなどの入れ替えです。NYダウは構成銘柄の入れ替えにより、株価指数として古びることなく鮮度を保っていると言えそうです。

長期的に米国株式市場の堅調さは維持されよう

NYダウが初めて30,000米ドルに乗せたことに表れているように、最近の米国株式市場は堅調に推移しています。ただし、米国では新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しており、医療機関への過度な負荷も懸念される状況になりつつあることから、政府が一時的に経済活動を抑制することも考えられます。その場合、株式市場も短期的に悪影響を受ける恐れがあります。しかし、新型コロナウイルス問題が深刻化して以降、米国株式市場では人と人との接触回避に有効なITサービスを提供する企業が躍進し、市場全体のけん引役になっています。時代、時代を起業家精神で切り開いていく米国企業と、その鏡である米国株式市場の強みが顕著に表れているといえるでしょう。この屈強な起業家精神がある限り、米国株式市場は一時的に低迷することがあったとしても、長期的には堅調を維持する可能性が高いと考えています。

NYダウ構成銘柄の推移

	1928年末	1950年末	2000年末	2020年11月末
1	アメリカン・スメルティング	アメリカン・スメルティング	ミネソタ・マイニング	3M
2	ノース・アメリカン	ジョンズ・マンビル	アメリカン・エクスプレス	アメリカン・エクスプレス
3	グッドリッチ	スタンダード・オイル (カリフォルニア)	SBCコミュニケーションズ	アップル
4	インターナショナル・ニッケル	インターナショナル・ニッケル	ボーイング	ボーイング
5	インターナショナル・ハーバスター	インターナショナル・ハーバスター	キャタピラー	キャタピラー
6	アライド・ケミカル	アライド・ケミカル	ハネウェル・インターナショナル	シェブロン
7	ゼネラル・モーターズ	ゼネラル・モーターズ	ゼネラル・モーターズ	シスコ・システムズ
8	テキサス・ガルフ・サルファー	ナショナル・ディスティラーズ	コカ・コーラ	コカ・コーラ
9	アメリカン・シュガー	デュボン	デュボン	ダウ
10	スタンダード・オイル (ニュージャージー)	スタンダード・オイル (ニュージャージー)	エクソン・モービル	セールスフォース・ドットコム
11	ゼネラル・エレクトリック	ゼネラル・エレクトリック	ゼネラル・エレクトリック	ウォルグリーン・ブーツ・アライアンス
12	ポストラム	ゼネラル・フーズ	フィリップ・モリス	ゴールドマン・サックス
13	シアーズ・ローバック	シアーズ・ローバック	ホーム・デポ	ホーム・デポ
14	クライスラー	クライスラー	IBM	IBM
15	アトランティック・リファイニング	グッドイヤー	インテル	インテル
16	バスレヘム・スチール	バスレヘム・スチール	ジョンソン&ジョンソン	ジョンソン&ジョンソン
17	アメリカン・キャン	アメリカン・キャン	JPモルガン	JPモルガン・チェース
18	ゼネラル・レールウェイ・シグナル	アメリカン・タバコ	マクドナルド	マクドナルド
19	マック・トラックス	コーン・プロダクツ	メルク	メルク
20	ユニオンカーバイド	ユニオンカーバイド	マイクロソフト	マイクロソフト
21	ライト・エアロノティカル	ナショナル・スチール	アルコア	ナイキ
22	アメリカン・タバコ	イーストマン・コダック	イーストマン・コダック	アムジェン
23	ナッシュ・モーターズ	プロクター・アンド・ギャンブル	プロクター・アンド・ギャンブル	プロクター・アンド・ギャンブル
24	ウェスティングハウス・エレクトリック	ウェスティングハウス・エレクトリック	シティグループ	トラベラーズ
25	パラマウント・パブリックス	ロウズ	インターナショナル・ペーパー	ユナイテッド・ヘルス・グループ
26	ラジオ・コーポレーション	ユナイテッド・エアクラフト	ユナイテッド・テクノロジー	ハネウェル・インターナショナル
27	ビクターキングマシン	アメリカン・テレフォン&テレグラフ	AT&T	ベライゾン・コミュニケーションズ
28	テキサス・カンパニー	テキサス・カンパニー	ヒューレット・パカード	ビザ
29	ウールワース	ウールワース	ウォルマート	ウォルマート
30	U.S.スチール	U.S.スチール	ウォルト・ディズニー	ウォルト・ディズニー

※ …構成銘柄の入れ替え (名称変更、合併・買収等は除く)

(出所) S&P Dow Jones Indices LLCより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。